

高瀬神社 社報

越中一宮



第47号

平成27年9月1日

越中高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ



早いもので今年も三分の二が過ぎました。お正月が来たと思つたら、すぐに節分になり、里山の雪が解けたかなと思つたら、間もなく桜の花が咲きだして、動植物が活発に動き始めました。やがて桜が散り、空が寂しくなった頃に鯉のぼりが賑やかに泳ぎ始め、大地の早苗も初夏の風に吹かれ、段々と濃い緑になりました。稲穂が出始めた頃、鎮守の杜から蝉の声が聞こえてきて、それからは暑い日が続きました。季節の移ろいはこんなに早いものだったかなとつくづく感じています。

最近裏山に新しく林道が開通しました。猪や熊が田畑を荒らす被害を未然に防ぐために電気柵がめぐらしてあります。私の子供の頃、里山は子どもの遊び

場で、春はワラビやゼンマイ、秋は栗やアケビなど取りに走り廻ったのですが、現在、熊や猪や鹿などの動物が里山に住みつき、危険な場所となり、遊び場を動物たちに譲ることになってしまいました。動物たちは彼らのペースで平和な生活を送っているだけなのですが、私たちの生活が脅かされる状況に変わってきています。

季節の移ろいも早ければ、世の中の移り変わりも早いものです。今年は大東亜戦争が終わって七十年の節目となりました。当時生まれた赤ん坊は古稀の齢となり、戦争体験者も少なくなってきました。

終戦から相当の年数が経過して、この戦争についての調査研究も進み、様々な見解が出され

ているにもかかわらずマスコミの報道は一方的で自虐的な見方を、戦後変わることなく続けています。

戦後、占領下で自信を失った日本人は筆舌に尽せぬ苦難の生活を経験しました。私の親世代はもちろん、私たちの世代も復興に尽力してきました。その結果、世界中が驚く速度で高度経済成長を成し遂げ、世界の経済大国の仲間入りを果たしました。国民一丸となって努力し、苦勞した事実もマスコミは大きく採り上げ、若い世代に伝えて、自分の国に誇りが持てるように報道することも大切なことです。次代を担う人たちが自信を持って将来の国造りに邁進できるようにするべきではないでしょうか。

八月十五日は終戦記念日ということで、早朝から慰霊碑の前で戦死者慰霊祭を斎行するのが毎年恒例の行事となっていますが、「戦後七十年が経過したので、今年で慰霊祭をやめることにし

よう。一般の家庭では五十年で慰霊祭は終わるのだから。」という声も聞こえてきました。本当にそれで良いのでしょうか。

遺族が減り、時代が変わり、若い人たちに英霊の姿がまともに伝わっていないため、これまでと異なった考え方をするようになりました。伝えなかつたほうも悪いのかもしれませんが、自分本位の考え方が中心となり、世間のことに関わるのは面倒だと利己主義が蔓延している現状です。これも戦後七十年間の遺産なのでしょう。

現在、世間で起きている事件や事故、社会不安の要因の多くは、戦後七十年変えなければいけなかつた部分を変えずに来たせいではないかと思えます。七十年という多くの歳月が流れ去りました。これまでに無駄にした時間は無かつたのか、これからも無駄使いつて行くのか、じっくりと考えるべき秋であります。

高瀬稲荷社例祭

境内東側に鎮座する末社「高瀬稲荷社」の例祭が、六月三十日午前十時より斎行され、講員約四十名が参列しました。

空梅雨の今夏、祭典当日も好天に恵まれ、例祭に続き、御本社にて「商売繁昌祈願祭」が行われ、講員一同の商売繁昌・社運隆昌と職場の安全を祈りました。

※末社：神社の社格の一つ。御本社に付属する神社で、境内の内または外にある。



夏越の大祓

知らず知らずのうちに犯している罪穢を祓い、残りの半年を清々しく過ごせるようにと願う「夏越の大祓」が、六月三十日午後三時より斎行されました。

拜殿にて「大祓詞」が奏上され、各人が「人形」に罪穢を移しました。続いて、祭員・参列者約百五十名が次々に「茅の輪」をくぐり心身を清めたのち、「舟」に収められた「人形」を大川道に祓い流しました。



人形感謝祭

七月十九日午前十時より古くなった人形に感謝し、神社へ納めるお祭り「人形感謝祭」が斎行されました。

当日は台風の影響も心配されましたが、本年度で十六回目を迎えた感謝祭には約七十名が参列し、子供の成長とともに使わなくなった壊れたりした「人形」や「ぬいぐるみ」に、感謝と真心の言葉を捧げ、お別れしました。



除熱祭

土用の三番にあたる七月二十日午前十時より「除熱祭」が斎行され、炎天下の続く夏を乗り切り、農作物が無事に生育するように祈りました。

祭典終了後、氏子区域の「献穀田（安田外喜男氏）」に御幣を立て、稲を祓い清めました。夕刻には「熱おくり太鼓」が行われ、氏子有志が町内を練り歩きました。



社のおぼろ

第十五回 人形展

第一期一会

七月十八日(土)

二十日(月祝)

木彫や和紙・陶器等、県内外の作家十六名の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場に彩られました。

本年は第十五回の特別企画として、ミュージシャンのChikoさんによる「ピアノ弾き語り演奏会」が開催され、期間中は大勢の人で賑わいました。



▽監修 梅崎 親美 (秀抱)
▽銘木材提供 嶋田 数男
▽写真提供 南部スタジオ



横堀貴美子(射水市)



松本 昌子(南砺市)



飛騨山静恵(富山市)



中山美代子(小矢部市)



つるもりひろこ(野々市市)



川原 るみ(南砺市)



福島まゆみ(金沢市)



熊野 幸子(砺波市)



牛島 辰馬(南砺市)



安達 陽子(砺波市)



笹波 美恵(高岡市)



中嶋外志男(南砺市)



小林 雅代(富山市)



南部 祥雲(高岡市)



鳥越 和馬(南砺市)



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎 秀鈴

平成二十七年 くにたまの会総会開催

七月七日、当社が担当となり「くにたまの会総会」が開催され、北海道から宮崎県まで各地から会員八十名が参集しました。

正式参拝の後、「平成二十七年度総会」では千家尊祐総裁（出雲大社宮司）の挨拶に続いて、廣瀬明正理事（荒井神社宮司）が議長をつとめ、事業計画・予算等が協議されました。

また、北陸大学未来創造学部長谷川孝徳教授により、「神饌と食文化」と題して記念講演が行われました。



南砺市埋蔵文化財センター

銘板除幕式

六月二十日、二年間の改修工事を経てリニューアルされた、南砺市埋蔵文化財センターの「銘板除幕式」が行われました。式では田中幹夫南砺市長をはじめ、揮毫した当社宮司、銘板を彫られた谷口信夫高瀬遺跡保存協会副会長が除幕し、オープンを祝いました。



赤い糸プロジェクト

AIP48結婚報告

南砺市が「AIP48」と銘打ち四十八組を目標に取り組んできた婚活支援事業。六月十四日、四十八組目に結ばれたお二人の神前結婚式が、当社にて行われました。心よりお慶び申し上げます。

南砺市 山道 康範さん
佳奈さん



※赤い糸プロジェクトとはAIPと略し、結婚を望む男女をバックアップする事業。庁内に婚活支援係を置き、「婚活倶楽部なんど」を運営するほか、登録した市内の男女らを対象に、出会の場を提供するイベントなどを行っています。

高瀬の碑いしづみ (大居覺平命)おおいかくへい

(魚岸一弥記)

先月の十五日、大東亜戦争終結より七十年の節目を迎え、各地で追悼行事が行われました。先の大戦によって散華され英霊となられた方々は二〇〇万柱を越えます。

靖國神社では、二百四十六万六千余柱の御祭神をお祀りしています。一般的に英霊といえは、戦地で亡くなられた陸海軍人を想像されるかもしれませんが。しかし、軍人の他にも外務省等の職員や従軍看護婦や児童、生徒など五万七千余柱の女性もお祀りされています。

旧高瀬村においても中華人民共和国の遼東半島にあった関東庁（日本の租借地であった関東州にあった役所）にて警察官として勤務し、匪賊（集団をなして掠奪・暴行を行う賊徒）から現地の住民を守るために戦い亡くなられた警察官がおられます。その生涯を記した名号塔

（碑）が南砺市森清に建立されており、ご紹介致します。

（正面）
故関東庁 兼外務省 巡査部長
勲八等功八位 大居覺平碑

南無阿弥陀仏
蚩其积現城

（碑背面）

故大居覺平氏は
覚蔵長男に生れ
性謹言剛直にして
友情厚く 郷党以
て典模となす 大
正九年十二月歩兵
第三十五連隊に入
営 翌年上等兵に
昇進し 十一年二
月西比利亞に派遣
せられ 下士適任
証書を付与せらる
十三年八月関東庁
兼外務省巡査拝命
十月安東警察署勤
務を命せられ 昭
和五年七月 安奉

線通遠堡派出所勤務を命せらる
六年九月滿洲事变勃発以来安奉
線一帯に亘る匪賊の跳梁は 居
住民の生命財産を脅威し 鉄道
交通の不安著しく之れか保護警
備の為め、屢危険を冒して其任
に服し幾多の偉功を樹てたり
七年三月十八日午前五時約三百
名の匪賊通遠堡附属地に來襲す
るや 同僚と協力し奮戦時余に
及び全く匪賊を撃退したり 然
れども身に負へる七十一ヶ所の
刺傷は 君をして 遂に人生の
華と散らしむ 功に依り警察最
高の功労記章を授けらる 享年
三十三歳

永田久信謹誌

昭和八年三月建之

世話方 村一同
石工 西殿村 斉田好四郎

※石碑の文字は、正字体を新字体に、
片仮名は平仮名に改め、ルビは適
宜筆者が振った。



功霊殿の創立

昭和二十年八月十五日、昭和天皇の御聖断により大東亜戦争は終結をむかえる。この戦争は、国家の総力を尽くした戦いであり、戦中、国家の為また家族のことを思つて亡くなられた英霊は、行政や親族の手によつて手厚くお祀りされた。それは、慰霊祭・忠魂碑・戦没碑など、記録としてまた現在もひっそりと佇む形として残されている。しかし、戦後、連合軍が進駐すると高山県でも、戦時体制の解体が行われた。昭和二十年十月には公共団体の宗教的行事が禁止され、続いて、国旗掲揚の制限、奉安殿（天皇皇后両陛下の御真影と教育勅語を納める建物）、忠霊塔・忠魂碑の撤去などが指示された。靖國神社に至つては存続すらも、危ぶまれたほどであった。また、生き残られた方々も、戦争犯罪人として続々と逮捕された。功霊殿が創立されたのは、このような逆風吹き荒れる時代であった。

功霊殿は、当社本殿より西側に位置する末社で、日清戦争から大東亜戦争まで、砺波地区より出征された英霊と、同地方開拓の功労者あわせて六四〇〇余柱を

お祀りしている。当地方開拓者を合祀したのは、地域の発展に貢献された側面もあったが、進駐軍の占領下ということを考慮した面もあった。

功霊殿創立が最初に検討されたのは昭和二十三年末、日本が連合軍の間接統治下にあった時代である。戦後の英霊の顕彰も満足に出来ない状況を見かねた遺族は憤り、遺族・同志と力を合せて功霊殿を創立し、永く慰霊感謝しようということになった。協議が神社で最初に行われたのは、同年二月四日に開かれた「高瀬村慰霊祭執行二関スル協議会」である。氏子によつて開催されたこの協議会で、高瀬村戦没者の慰霊祭・追悼法会執行の件と「招魂堂」の設立が協議された。初期の段階では、「永芳殿」「護國殿」など名称の候補があったが、当時の尾崎定業宮司の意向で「功霊殿」となった。鎮座地については高瀬神社境内で一決した。

同年七月には、東西砺波郡の英霊顕彰を目的とする「越中一宮高瀬神社功霊殿奉斎会」の陣容・方針も定まってくる。会長には後に県会議長となる岩川毅（実業家・政治家）。副会長には東西砺波郡遺族会長を迎えた陣容となった。

同会の規約には、「此の会は東西砺波郡における平和建設功労者の霊を高瀬神社境内の功霊殿に合祀して其の霊を慰め、尚其の功績を敬慕せんが為永遠に祭祀を執行するを目的とす」と定められた。

また、ご祭神については、左記のような範囲となった。

- ①戦没勇士・軍属
- ②公務に生命を捧げた人：警官・教員・消防員・自治団役員等
- ③職場に生命を捧げた人：炭坑・鉄道工事・水道工事等
- ④地方開拓に功績のあった人
- ⑤砺波地方産業文化発展に功績のあった人
- ⑥其他役員会において推挙のあった人

以上のように、創立に向け順調に進んでいるように思われたが、遺族会のなかから多くの意見も噴出した。終戦直後という特殊な状況下であったが、反対する意見もあったが、奉賛会監事の根尾長次郎が、熱涙下る説得を行い、その状況をまとめられた。これまで述べたような奉賛会の尽力もあり、功霊殿鎮座合祀祭が、同年九月七日、午前十一時半に斎行された。会長・副会長以下多数参列され、ご遺族の方々の御参列は三千人を数えたという。創立間もな

い昭和三十一年には、左記の市町村の英霊をお祀りしており、三年以降も地方に貢献された方々を合祀し続けている。

現砺波市 砺波市・庄川町
若林村
現南砺市 高瀬村・福光町
福野町・城端町
井波町・井口村
利賀村・平村
上平村・西野尻村
現高岡市 高岡市・福岡町
中田町・戸出町
現小矢部市 石動町・砺中町
西野尻村

終戦後の占領下・全国各地では食糧難の地域があった時勢にも拘らず、無事創立に至つたのは、各遺族会・奉賛会・氏子の方々ははじめ多くの方々のご尽力と英霊への強い思いがあったが為であろう。今年、戦後七十年をむかえ、全国の一部地域で、「この節目を以て、地元の慰霊祭を最後にしよう」という話がちらほら出ていることを聞いた。地域によって諸々の事情もあるかもしれないが、先の奉賛会規約にもあるように当時の方々は、「永遠に祭祀を執行」されることを望んでいたのではないだろうか。

幼い頃の思い出

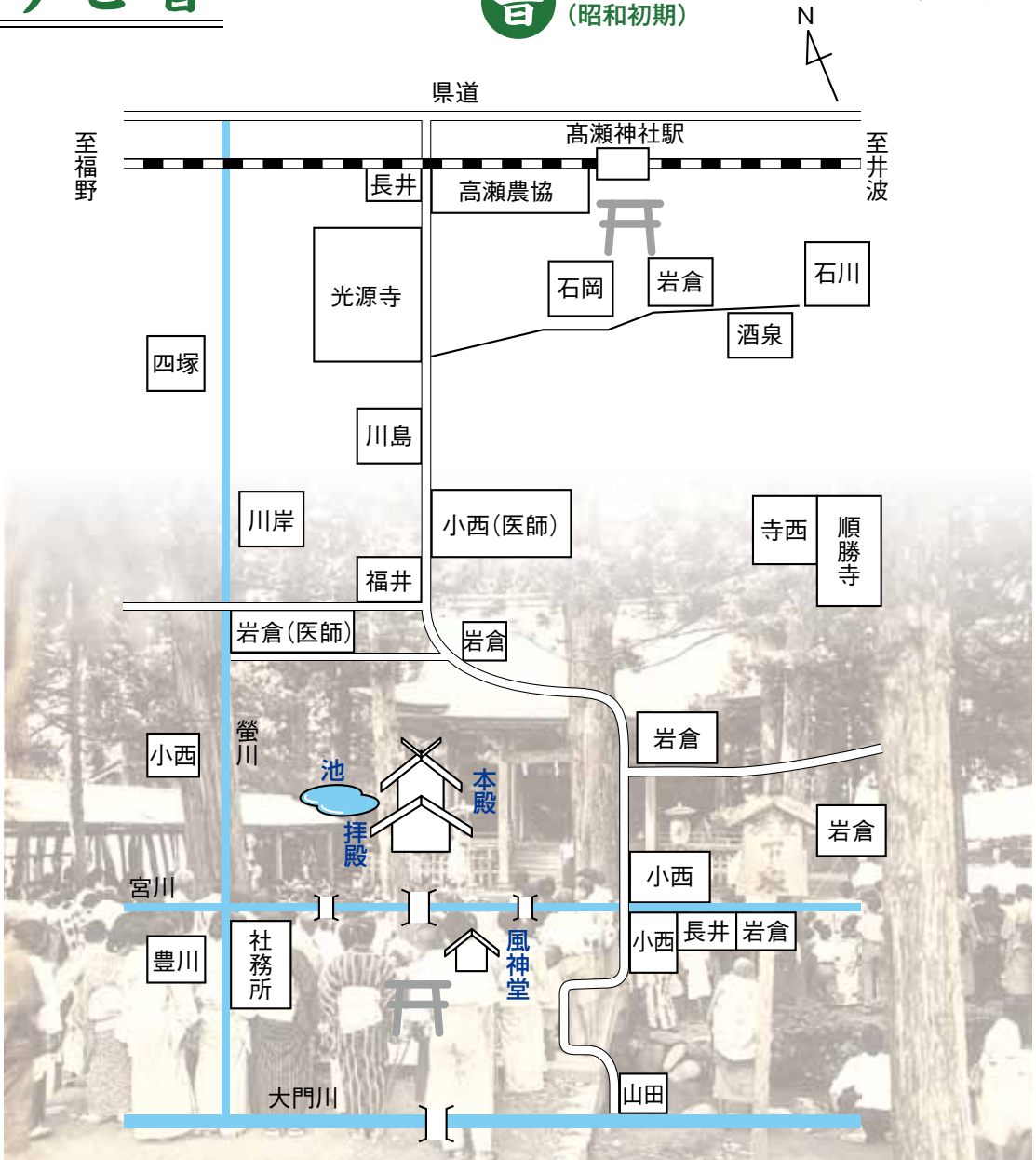
田邊良三

子供の頃の遊び場として誰れいとうなく集まるのが神社の境内でした。相撲を取ったり、かくれんぼなどをしたりしました。特にかくれんぼをする時は、杉の大木の割れ目に二人くらい入って隠れることが出来、大変便利でした。また、今の本殿へ行く手前に太鼓橋があり、渡る手前右側に大きな風神堂がありました。木の堀で囲まれた立派なものでした。その前に土の山があり、それが私たちの遊び場として最適でした。土の山の上で相撲を取ったり、坂落としをしたりしました。

の今と昔

昔 (昭和初期)

平成27年6月吉日



また、別の遊びとして拝殿床下にある皿舞（さらまい）と云う虫を捕ったりもしました（床下の土が灰状になり虫が動くのに丁度具合が良い）。

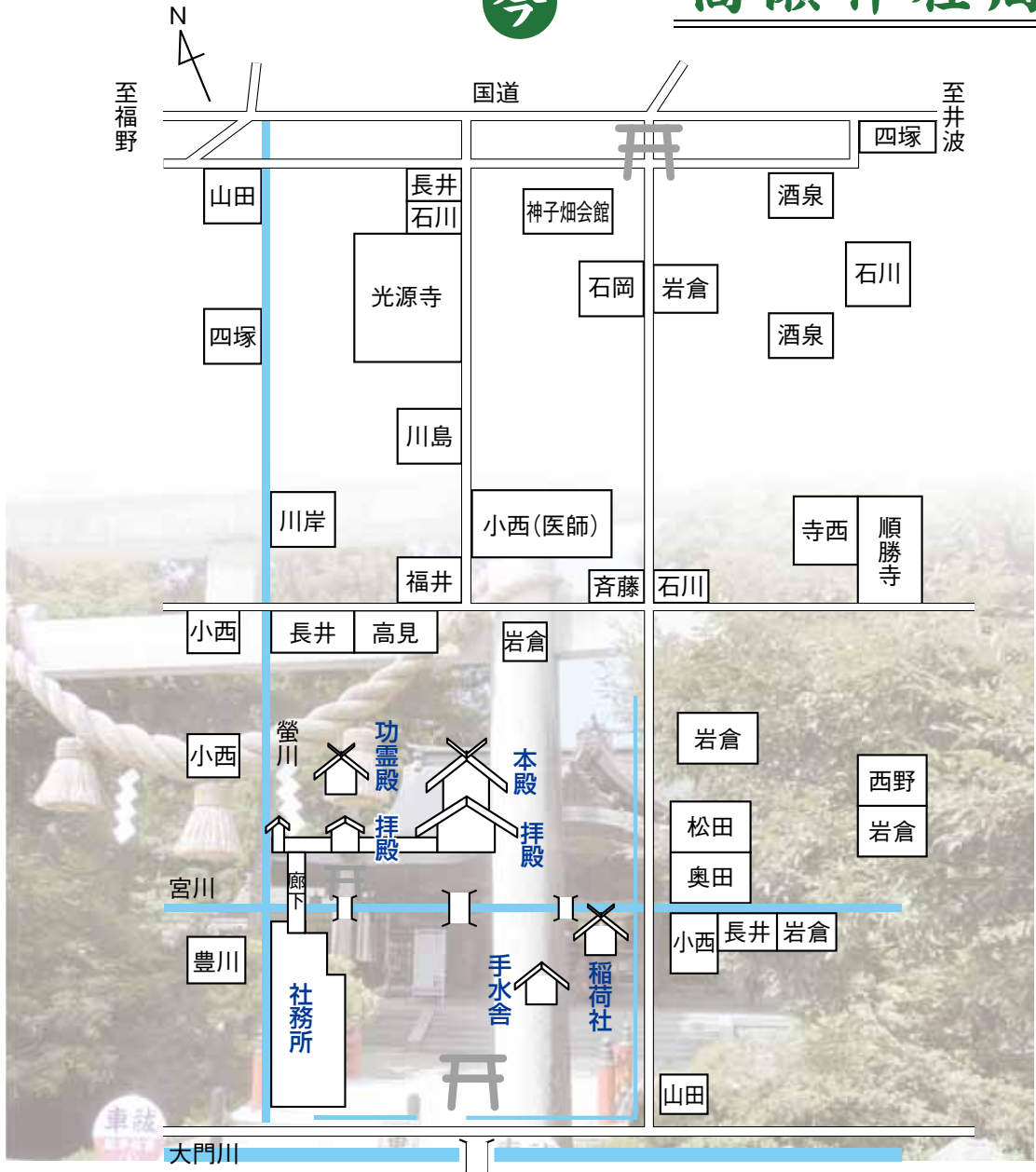
さらに本殿左側にあった池は深さ二メートルほどで、かたい者だけ顔が写るということで、何回も何回も池の中を見入りました。本殿後ろにある外堀は横に流れている螢川同様に水遊びの場であり蓮の花や葉と子供の水泳とで賑わいました。

当時の仲間は今も故人となられた方がほとんどです。

※かたい者：良い子という意味



高瀬神社周辺



参拝の作法

「二拝二拍手一拝」座礼

神様を拝む作法「二拝二拍手一拝」。今回は座礼での正式な作法をご紹介します。



③肩幅程度に両手を開き、二回拍手をします。



①神前に進み姿勢を正す。



④もう一度おじぎをします。



②二回深くおじぎをします。
※おじぎの際、床に手をつけます

ご案内

はがた いし 歯固め石

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。お問い合わせは社務所へお願いします。

電話〇七六三(八二)〇九三二

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生え始める時期です。お食い初めでは、赤ちゃんに石のように丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



奉納

○色紙「日本心」
新潟県長岡市
道間 恵子殿
平成二十七年七月十八日



○「MINAZUKI」

富山県美術展会員大賞作品
(平成十三年)



○「想い」

富山県美術展賞作品
(昭和六十三年)



南砺市野田
彫刻家・日本美術会員
中嶋外志男殿
平成二十七年七月二十日

【表紙写真】

功 靈 殿

新年初祈禱のご案内

～一年の計は元旦にあり～

福の神・結びの神様であります「大国主命（大国様）」をおまつりする高瀬神社では、全ての災厄を祓い退け、心に平安をもたらす高瀬の大神様のご神徳により、ご家族皆様の安泰と繁栄、また諸々の願いが成就するよう祈る、「新年初祈禱」を承ります。

新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」が結ばれ幸せであるよう、年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

・内容 家内安全（開運招福） 家族結び祈禱
商売繁昌（事業繁栄） 他

（願意はホームページをご覧ください）

・期間 節分の頃までにご参拝ください

午前八時三十分から午後四時三十分まで
（元旦は午前零時から午後八時頃まで）

・受付 ご祈禱入口からお入り下さい

・祈禱料 一祈願五千円より
（ご志納願います）

ご祈禱をお受けになり、
一年間清々しくお過ごし下さい。

まず大国様に初詣



戌の日（安産祈願）

平成27年

9月 7・19日
10月 1・13・25日
11月 6・18・30日
12月 12・24日

平成28年

1月 5・17・29日
2月 10・22日
3月 5・17・29日
4月 10・22日

腹帯のお祝いも行いますのでご持参下さい。

七五三詣（数え年）

本年は次の通りです。

- 7歳（女子） 平成21年生
- 5歳（男子） 平成23年生
- 3歳（男女） 平成25年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。

平成28年 厄年・身祝一覽

〔厄年〕 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成5年(酉)	25歳	平成4年(申)	26歳	平成3年(未)
	41歳	昭和51年(辰)	42歳	昭和50年(卯)	43歳	昭和49年(寅)
	*60歳	昭和32年(酉)	*61歳	昭和31年(申)	*62歳	昭和30年(未)
女	18歳	平成11年(卯)	19歳	平成10年(寅)	20歳	平成9年(丑)
	32歳	昭和60年(丑)	33歳	昭和59年(子)	34歳	昭和58年(亥)
	*36歳	昭和56年(酉)	*37歳	昭和55年(申)	*38歳	昭和54年(未)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

〔身祝〕 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和31年(申)
古希	70歳	昭和22年(亥)
喜寿	77歳	昭和15年(辰)
傘寿	80歳	昭和12年(丑)
米寿	88歳	昭和4年(巳)
卒寿	90歳	昭和2年(卯)
白寿	99歳	大正7年(午)

※男女ともに祝います。

発行日 平成二十七年九月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒933-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL(0763)821093
FAX(0763)821304

編集人 長谷川宏幸

印刷所 牧印刷株式会社

家族が結ばれる日



～親族固めの御盃の儀～

新郎新婦の両家が親族となる儀式。
最近では親族だけでなく参列者全員が、
お互いの絆を固く強くと願い祝意を込め、
御神酒をいただきます。

縁結びの神様に誓う
伝統の結婚式を挙げていただく、
一生に一度の日だからこそ、
一日一組のカップルの為だけに、
このバンケットは生まれました。



一日一組限定の

おもてなしバンケットホール

このバンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただけますよう、お待ち申し上げます。

只今
ご予約
受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

